

○20番（藤原雅彦）（登壇） 公明党議員団の藤原でございます。

先ほど近藤議員が質問されました。私の質問の1、2、3と基本的には同じ質問だと思います。できたら、違う角度で違う切り口の答弁を期待しておりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

それでは、通告に従いまして、公明党議員団を代表して、通告のとおり質問をさせていただきます。

まず1番目、市民文化センターの建て替えについて。

市民文化センターは、1962年、昭和37年に建設されて以来、60年以上の長きにわたり、本市の文化・芸術活動の拠点として市民に親しまれてきました。市民文化センターは、大ホール1,163席、中ホール489席を備え、クラシックコンサート、講演会、芸術祭、幼稚園の発表会など、幅広い文化活動の場として利用され、市民の心の豊かさを育む場として、また、地域コミュニティーの核として、重要な役割を果たしてまいりました。

しかし、市民文化センターは、施設の老朽化が顕著であり、耐震性の課題やバリアフリー対応の不足など、多くの問題が指摘されております。これを受け、前市政から建て替えの計画が進められ、2027年度の大ホール閉館、2032年度の一部供用開始を目標としたスケジュールが示されております。

古川市長におかれましては、昨年11月の市長選挙において、市政の刷新を掲げ、市民文化センターの建て替え計画の再検討と新たなアリーナ整備の可能性を模索する方針を表明されております。

アリーナ建設は、スポーツイベントや大規模コンサート、展示会など、多目的な利用が可能な施設として、本市の魅力を高め、観光振興や経済活性化に寄与する可能性があるかと理解しております。特に若者層のニーズに応え、現代的なエンターテインメントや地域外からの集客を図る上で、アリーナは魅力的な選択肢であると考えられます。

しかしながら、市民文化センターの建て替えとアリーナ建設という大規模プロジェクトを進めるに当たり、市民文化センターの建て替えが、総事業費約210億円以上、アリーナ建設になれば、それ以上の事業費がかかる可能性は否定はできません。

このように、巨額の予算や施設の具体的な規模、機能についての計画が明確に示されないまま、議論が順調に進展することは難しいのではないのでしょうか。財政負担や市民ニーズとの整合性、そして既存施設の活用可能性について、時間をかけて慎重な議論が必要ではないかと考えます。

そこで、今回、市民文化センターの全面建て替えやアリーナ建設の推進に加え、補修、改修を第3の選択肢として検討すべきではないのでしょうか。

まず、市民文化センターの現状についてです。

施設は老朽化しているものの、市民の間では長年の愛着があり、歴史的、文化的な価値を持つ施設として認識されております。

例えば、プラネタリウムは子供たちにとって貴重な学びの場であり、地域の文化イベントの中心地としての役割は今なお健在です。全面建て替えを行う場合、これまでの施設が

持つ市民の記憶や地域のアイデンティティーが失われる懸念があります。

また、先ほど申したように、建て替えには多額の予算が必要であり、財政負担はさらに増大します。本市の財政状況を鑑みると、中長期的な視点での資金計画や他の公共事業との優先順位を明確にする必要があると考えます。

一方、補修、改修を選択した場合、まず建て替えに比べ、初期投資を抑えられる可能性があります。耐震補強やバリアフリー対応、舞台設備の更新など、必要な改修に絞って実施することで、施設の安全性や利便性をアップデートし、財政負担を軽減できます。

また、既存の施設を生かすことで、市民が慣れ親しんだ空間を維持しつつ、現代のニーズに応じた機能追加が可能です。

例えば、音響や照明施設の改良、多目的スペースの拡充、環境に配慮した省エネルギー化など、部分的な改修でも十分に施設の魅力を高められるのではないのでしょうか。

さらに、補修、改修は市民文化センターの既存の役割を損なわず、市民の声を反映しやすい選択肢でもあります。

古川市長は選挙戦で、市民との対話を重視する姿勢を示されました。市民文化センターの今後を考える上で、市民アンケートや公聴会を通じて、どのような施設を望むのか、どのようなイベントを期待するのか、幅広い意見を聴取することが重要です。

アリーナ建設は確かに魅力的ですが、多くの市民が日常的に利用する文化施設としての機能が優先されるべきではないのでしょうか。補修、改修を検討することで、市民のニーズに寄り添った現実的な計画が立案できると考えます。

次に、アリーナは大規模イベントの開催や地域振興に寄与する可能性があります。建設後の管理運営コストや利用頻度も重要な検討事項です。他都市の事例を見ると、アリーナの稼働率が低く、維持費が財政を圧迫するケースも散見されております。

本市においても、アリーナの需要予測や具体的な活用計画を事前に精査する必要があります。また、民間活力の導入も一つの選択肢として議論されております。

2024年5月に開催された事業者選定委員会では、市民文化センター再整備事業における民間活力導入可能性調査の優先交渉権者が選定され、具体的な検討が進められていました。民間との連携は、資金調達や運営の効率化に寄与する可能性があります。公共施設としての公益性をどう担保するかが課題です。

補修、改修を選択した場合でも、民間との協力を通じてコストを抑えつつ、魅力的な施設運営を実現できる可能性があると考えます。

また、市民文化センターの建て替えやアリーナ建設を進めるに当たって、市民参加型のプロセスを重視していただきたいと思います。

古川市長の公約である市政の刷新を実現するためには、市民の声を丁寧聞き、透明性のある意思決定が不可欠です。補修、改修を第3の選択肢として検討することで、市民ニーズに合った現実的かつ持続可能な施設整備が可能になると考えます。

以上を踏まえ、以下の質問をいた

します。

市民文化センターの老朽化の実態調査を行い、補修、改修が可能であるならば、第3の選択肢として検討することについて、古川市長の御所見をお伺いいたします。

アリーナ建設の検討状況について、需要予測、財政計画、市民ニーズとの整合性に関する現在の構想などの進捗をお伺いいたします。

市民文化センターの今後を考える上で、市民参加型の議論や意見聴取の場をどのように設けるお考えでしょうか、御所見をお伺いいたします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 公明党議員団代表の藤原議員さんの御質問にお答えいたします。

市民文化センターの建て替えについてでございます。

まず、市民文化センターの補修、改修を第3の選択肢として検討することについてお答えいたします。

市民文化センターにつきましては、本年7月から8月の間、建物調査といたしまして、外観の劣化調査を行いました。調査内容のうち、コンクリートの状態につきましては、平成24年度の建物調査と比較して、想定ほど劣化が進行していないことを確認いたしました。そのため、今後、施設の設備の状況を含め、専門家の意見もいただきながら、御提案の補修、改修という第3の選択肢の可能性につきましても検討してまいりたいと考えております。

次に、アリーナ建設の検討状況についてでございます。

アリーナ建設に係る需要予測、財政計画、市民ニーズとの整合性等につきましては、先進地視察や市民アンケートによる意見聴取等に取り組んでおりますが、具体的な構想等の検討までは進んでおりません。

次に、市民文化センターの今後について考える上で、市民参加型の議論や意見聴取の場をどのように設けるのかについてでございます。

現在の市民文化センターの基本構想及び基本計画を大きく変更しなければならない必要が生じた場合には、策定時と同様、市民検討委員会による協議やパブリックコメントを実施し、広く市民の皆様の声を聞く必要があると考えております。

○議長（田窪秀道） 藤原雅彦議員。

○20番（藤原雅彦）（登壇） 第六次新居浜市長期総合計画における市民文化センターの建て替えは、文化的価値と地域の将来を見据えた意義深い取組です。費用対効果、安全性、市民ニーズのバランスを慎重に検討し、持続可能な形で推進されるべきだと感じます。

そして、市民との対話や情報公開をより一層強化し、計画の透明性と納得感を高める努力を図っていただきたいと思います。

今回、文化センターの建て替えということで、僕個人としては、できればあの形をそのまま残すほうがいいのかなと考えております。

というのが、ある夕刻、文化センターの前を通ったときに、夕焼けを浴びる文化センターを見て、ふと思ったのは、これが新居浜市の原風景だなと。今、開発が進み、僕たちが小さいときに見ていた、小さいときに感じていた風景が全て変わっております。特に駅前も何年か前に開発ができて、何年かぶりに新居浜に帰

ってきた人が新居浜とは違うというふうな声もお聞きします。できれば新居浜市が今ある原風景を持続可能として、また、10円プールもそうです。10円プールも、僕が中学校、高校のときに始まったプールであります。その10円プールも、大きくなってもまだ新居浜には10円プールがあるんだと、そういう原風景、持続可能な思いをしていただくためにも、ぜひとも補修、改修ができるのであれば、そういう方向でよろしくお願いしたいと思います。